

特定の研究計画書によらない学術論文

次に示す論文は特定の研究計画書に基づく調査結果ではなく、おおむね外部の研究者との共同研究によるもの、あるいは放影研を著者とする論文、ならびに予備調査に基づく論文である。従って、特定の調査研究課題の章に含めていないので、ここで部別にリストした。

理事および主席研究員

◆ Shore RE: Lessons from Fukushima: Scientists need to communicate better. *Bull World Health Organ* 2013 (June); 91(6):396–7.

◆ Walsh L, Shore RE, Auvinen A, Jung T, Wakeford R: Re: Cancer risk in 680 000 people exposed to computed tomography scans in childhood or adolescence: Data linkage study of 11 million Australians [letter]. *BMJ* 2013 (June 4). Available from: <http://www.bmj.com/content/346/bmj.f2360/rr/648506>

◆ Wondergem J, Boerma M, Kodama K, Stewart FA, Trott KR: Cardiovascular effects after low-dose exposure and radiotherapy: What research is needed? *Radiat Environ Biophys* 2013 (November); 52(4):425–34.

臨床研究部（広島）

◆ Arataki K, Hayes CN, Akamatsu S, Akiyama R, Abe H, Tsuge M, Miki D, Ochi H, Hiraga N, Imamura M, Takahashi S, Aikata H, Kawaoka T, Kawakami H, Ohishi W, Chayama K: Circulating microRNA-22 correlates with microRNA-122 and represents viral replication and liver injury in patients with chronic hepatitis B. *J Med Virol* 2013 (May); 85(5):789–98.

◆ Hammer GP, Scheidemann-Wesp U, Samkange-Zeeb F, Wicke H, Neriishi K, Blettner M: Occupational exposure to low doses of ionizing radiation and cataract development: A systematic literature review and perspectives on future studies. *Radiat Environ Biophys* 2013 (August); 52(3):303–19.

遺伝学部

◆ Nakamura N, Suyama A, Noda A, Kodama Y: Radiation effects on human heredity. *Annu Rev Genet* 2013 (November); 47:33–50. (CR 2-12)

放射線生物学／分子疫学部

◆ 楠 洋一郎：フローサイトメトリー活用のためのコツとピットフォール—臨床研究で実際に注意すべき基本的ポイント。 *医学のあゆみ* 2013 (June); 245(12):981–5.

◆ Sueoka E, Sueoka-Aragane N, Sato A, Ide M, Nakamura H, Sotomaru Y, Taya C, Yonekawa H, Kitagawa T, Kubota Y, Kimura S, Nakachi K, Tanimoto K: Development of lymphoproliferative diseases by hypoxia inducible factor-1alpha is associated with prolonged lymphocyte survival. *PLoS ONE* 2013 (April); 8(4):e57833.

◆ 吉田健吾：mTOR シグナル経路が関わるヒト老化メカニズムと放射線被曝。 *放射線生物研究* 2013 (September); 48(3):297–305.

統計部

◆ Cologne JB: Probabilistic interpretation of data: A physicist's approach by Guthrie Miller [Book review]. *Health Phys* 2013 (December); 105(6):576–7.

特定の研究計画書によらない学会発表

次の学会発表は特定の研究計画書に関連していないが予備調査に基づくもの、または外部機関との共同研究あるいは全般的な研究情報である。部別にリストした。

主席研究員

❖ Ullrich RL、Weil MM、Story M、Yu Y、Vargas G、Nilsson C、Emmett MR。放射線発がん専門研究センター。NASA ヒト研究プログラム研究者ワークショップ、2014年2月11-13日。米国テキサス州ガルベトン

臨床研究部（長崎）

❖ 赤星正純。原爆被爆の長期予後：広島・長崎原爆後の長期非がん疾患の増加。第36回欧州骨髄移植学会年次総会、2013年4月7-10日。英国ロンドン

遺伝学部

❖ 浅川順一。Whole exome sequencing を用いた放射線の遺伝的影響調査。第3回 NGS 現場の会研究会、2013年9月4-5日。神戸

放射線生物学／分子疫学部

❖ 多賀正尊、向井真弓、小山和章、伊藤玲子、三角宗近、中地敬、楠洋一郎、安井弥、濱谷清裕。予備的研究：原爆被爆者肺腺がんにおける *ALK* 遺伝子再配列の解析。第54回原子爆弾後障害研究会、2013年6月2日。広島

疫学部

❖ 小笹晃太郎、定金敦子、福島若葉、大藤さところ。ワクチンによるインフルエンザの予防と対策に関する啓発。第72回日本公衆衛生学会総会、2013年10月23-25日。津

情報技術部

❖ 片山博昭。セミパラチンスク旧ソ連核実験場近郊の死亡動向と甲状腺がんに関するリスク調査。セミパラチンスク旧核実験場近郊の健康影響に関する会議、2013年5月6-8日。フランス、リヨン

❖ 片山博昭、井岡亜希子、津熊秀明、松田智大、「がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班。日本におけるがん登録標準化への取り組みと情報の活用。第5回国際がん対策学会、2013年11月3-6日。ペルー、リマ

主席研究員室付

❖ 高橋規郎。放射線の遺伝学的影響—原爆被爆者の子供の調査からの知見。2013年放射線疫学調査報告会、2013年12月19日。東京

所内学術講演およびセミナー

2013年4月1日-2014年3月31日

本年度、以下の口頭発表（日付順）が研究所内外の研究者によって放影研広島研究所で行われた。

中島栄二 放射線影響研究所統計部副部長、第276回広島統計談話会、演題「低線量域に重きを置いた放射線量反応推定：原爆被爆者データへの制限付き三次スプライン・モデルの応用」4月19日

Robert L. Ullrich 米国テキサス大学医学部放射線腫瘍学科および生化学／分子生物学科教授兼 John Sealy 記念がん生物学教授、同大学 Sealy がん生物学研究所長、演題「放射線誘発がんを理解するためのマウスとヒトにおける研究」4月22日

Olivia M. Pereira-Smith テキサス大学サンアントニオ校 Barshop 長寿・老化研究所名誉教授、演題「細胞の老化機構の研究、過去と将来展望」6月4日

伊森晋平 広島大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期、第277回広島統計談話会、演題「高次元データにおける新たなモデル選択方法」6月7日

Jennifer G. Le-Rademacher 米国ウイスコンシン医科大学生物統計学部門助教、演題「シンボリックデータ解析：主成分分析の一例」6月20日

若木宏文 広島大学大学院理学研究科教授、第278回広島統計談話会、演題「多変量線形回帰モデルの説明変数選択に関する AIC の一貫性（説明変数の個数が多い場合）」6月28日

黒川 顕 東京工業大学大学院生命理工研究科生命情報専攻、演題「メタゲノミクスの現状と将来」9月27日

山田拓司 東京工業大学大学院生命理工研究科生命情報専攻、演題「臨床応用へ向けたメタゲノム解析」9月27日

John B. Cologne 放射線影響研究所統計部主任研究員、第279回広島統計談話会、演題「コホート追跡調査の Cox 回帰分析での基礎時間尺度」9月27日

Helmut Durchschlag ドイツ、レーゲンスブルク大学生物物理・物理生化学研究所生物学・前臨床医学部（現）上級講師・研究員、（元）学術院長、演題「眼成分への影響を中心にした放射線の生体分子影響について」9月30日

William J. Schull 米国 Schull 協会会長、元放影研役員、演題「与えられたもの（日米研究者養成における ABCC-放影研の貢献）」10月30日

Daniel O. Stram 米国南カリフォルニア大学予防医学部生物統計部門教授、放影研統計部顧問、演題「ゲノムワイド関連解析（GWAS）の当面の課題」11月14日

H. Dean Hosgood 米国アルベルト・アインシュタイン医学校疫学・公衆衛生学部助教、演題「がん疫学における遺伝的リスク要因および遺伝子・環境因子の相互作用」11月18日

Maria Blettner ドイツ、ヨハネス・ゲーテンベルク大学（マインツ大学）医療生物測定・疫学・インフォマティクス研究所（IMBEI）所長、演題「低線量放射線被曝の小児における健康影響：最近のコホート研究の結果について」11月27日

柳原宏和 広島大学大学院理学研究科准教授、第280回広島統計談話会、演題「正規性を仮定した高次元多変量線形回帰モデルにおける対数尤度に基づく情報量規準が実際には正規性が満たされていない状況下で一貫性を持つための条件」11月29日

Young Min Kim 放射線影響研究所統計部研究員、第281回広島統計談話会、演題「時系列のための進行ブロック経路尤度法」12月13日

伊藤 敦 東海大学工学部原子力工学科教授、演題「放射線の細胞に与える影響：ローカルエネルギー付与機構」12月25日

放影研研究懇話会

放影研研究懇話会（コロキウム）は、正式なセミナーではなく、主として現在進行中あるいは予備的研究について発表し、所内研究者からの建設的な意見をを得ることを目的とする。

野田朝男 遺伝学部副部長、演題「放射線で突然変異が起こると細胞が生きたまま光るマウスの作製」4月26日

伊藤玲子 放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室副主任研究員、演題「原爆被爆者の大腸がんにおけるマイクロサテライト不安定性とそれにかかわる遺伝子の変異」5月17日

世羅至子 長崎臨床研究部副主任研究員、演題「放射線と慢性腎臓病」6月21日

杉山裕美 疫学部腫瘍組織登録室室長代理、演題「胎内原爆被爆者における死亡率、1950-2008」8月23日

三角宗近 統計部研究員、演題「ゲノム研究の現場—RERFの今後の研究のために」9月27日

児玉和紀 主席研究員、生物試料センター長、演題「生物試料センター業務進捗状況報告」10月4日

濱崎幹也 遺伝学部研究員、演題「胎仔放射線被曝により生じる染色体異常の頻度は組織によって異なる」11月15日

林 奉権 放射線生物学／分子疫学部副部長、演題「原爆被爆者におけるインフルエンザワクチン効果調査：本格調査の結果」12月20日

今泉美彩 長崎臨床研究部放射線科長兼臨床検査科長、演題「若年被爆者の甲状腺調査」1月17日

放影研職員の受賞

2013年4月1日-2014年3月31日

秋田市で開催された第22回地域がん登録全国協議会学術集会で、**杉山裕美**広島疫学部腫瘍組織登録室室長代理が平成25年度学術奨励賞を受賞。6月14日

同じく第22回地域がん登録全国協議会において、地域がん登録中央登録室の実務者で一定の技術レベルを達成した者に与えられる実務功労者表彰を、**中村さおり**広島疫学部腫瘍組織登録室職員が受賞。6月14日

平成 25 年度 外部資金研究一覧表

外部機関名称	件数	研究資金 (資金拠出機関からの入金額)
厚生労働省	7	¥7,400,000
独立行政法人 日本学術振興会 (文部科学省所管の独立行政法人)	16	¥75,750,000
公益財団法人 原子力安全研究協会 (環境省委託事業の受託機関)	1	¥4,412,869
公益信託 日本動脈硬化予防研究基金	1	¥1,879,667 (前年度繰越金) *
公益財団法人 喫煙科学研究財団	1	¥2,000,000
国立遺伝学研究所	1	¥744,000
公益財団法人 日本心臓財団	1	¥300,000
米国立がん研究所 (NCI) 契約	1	¥17,566,461
米国立アレルギー感染症研究所	1	¥154,606,042
総 合 計	30	¥264,659,039

注) ・ 間接費を含む。

・ 研究分担者の配分額を含む。

・ 複数の部の研究員が一つの包括的な外部資金によって個別に資金を受領している場合が幾つかある。
このような場合、これら個別の資金を複数の外部資金として数えている。

* 研究費の受け入れは、平成 24 年度で終了している。

平成 25 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究分担者	期間	研究資金
臨床研究部 (広島) 脂溶性肝疾患の進展促進要因に関する前向きコホート研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 大石 和佳 放射線影響研究所臨床研究部部長代理		2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥600,000 間接経費 ¥180,000
特定健診・保健指導におけるメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 門脇 孝 東京大学大学院医学系研究科教授	山田 美智子 研究協力者 立川 佳美	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	¥1,100,000
大規模コホート共同研究の発展による危険因子管理の優先順位の把握と個人リスク評価に関するエビデンスの構築	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 岡村 智教 慶應義塾大学医学部 教授	山田 美智子	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	¥2,100,000
成人健康調査集団における動脈硬化・認知症ならびに ADL の評価	公益信託 日本動脈硬化予防研究基金 研究組織委員長 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授 研究代表者 山田 美智子 放射線影響研究所臨床研究部健診科長		2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	¥1,879,667 前年度からの繰越 (研究費の受け入れは 2012 年度で終了) 広島大学の共同研究者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
放射線被曝が動脈硬化性疾患発症に及ぼす影響	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「若手研究 (B)」 研究代表者 立川 佳美 放射線影響研究所臨床研究部健診科 副主任研究員		2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥600,000 間接経費 ¥180,000
禁煙による動脈硬化性疾患予防効果は禁煙後の体重変化の影響を上回るか—30 年の縦断調査に基づき検討	公益財団法人 日本心臓財団 アステラス・フアイザー 「動脈硬化 Update」研究助成 研究代表者 高橋 郁乃 放射線影響研究所臨床研究部臨床検査科研究員		2013 年 9 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	¥300,000

平成 25 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループの名前と場所および委託組織のチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究担当者	期間	研究資金
遺伝学部 個体内における電離放射線誘発突然変異成立過程の解明	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (S)」 研究代表者 三谷 啓志 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	野田 朝男	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,800,000 間接経費 ¥540,000
高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた原爆放射線の遺伝的影響調査	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (B)」 研究代表者 小平 美江子 放射線影響研究所遺伝学部遺伝生化学研究室長	浅川 順一 古川 恭治 (統計部) 連携研究者 中村 典 (同部顧問)	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥2,100,000 間接経費 ¥630,000
日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異ハテロ保因者の皮膚がんリスクの評価	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 平井 裕子 放射線影響研究所遺伝学部細胞遺伝学研究室研究員	児玉 喜明 中村 典 (同部顧問)	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,100,000 間接経費 ¥330,000
次世代シーケンサーを用いた放射線のラット未熟卵母細胞に及ぼす遺伝的影響の評価	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 佐藤 康成 放射線影響研究所遺伝学部遺伝生化学研究室研究員	小平 美江子 浅川 順一 連携研究者 中村 典 (同部顧問)	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥100,000 間接経費 ¥30,000
胎児期被ばくマウスに生じる染色体異常の組織による違いの解明	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「若手研究 (B)」 研究代表者 濱崎 幹也 放射線影響研究所遺伝学部細胞遺伝学研究室研究員	濱崎 幹也	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,200,000 間接経費 ¥360,000
<i>In vivo, in situ</i> 突然変異検出系を用いた環境および放射線リスク評価	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (S)」 研究代表者 野田 朝男 放射線影響研究所遺伝学部副部長		2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥35,900,000 間接経費 ¥10,770,000 他機関 (東京大学、大阪大学、茨城大学) の研究分担者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。

平成 25 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究担当者	期間	研究資金
<p>遺伝学部 放射線により生じる修復不能な DSB の特異的定量法開発</p>	<p>日本学術振興会 科学研究費助成事業 「挑戦的萌芽研究」 研究代表者 野田 朝男 放射線影響研究所遺伝学部副部長</p>	<p>放影研における研究担当者</p>	<p>2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日</p>	<p>直接経費 ¥1,700,000 間接経費 ¥510,000</p>
<p>放射線生物学／分子疫学部 原爆被曝者における免疫老化とその他の放射線被曝後影響の調査</p>	<p>米国国立アレルギー・感染症研究所 主任研究者 中地 敬 放射線影響研究所顧問 共同主任研究者 楠 洋一郎 放射線生物学／ 分子疫学部長、林 奉権 放射線生物学／ 分子疫学部副部長</p>	<p>Robert L. Ullrich (主席研究員) 京泉 誠之 伊藤 玲子 梶村 順子 吉田 健吾 (臨床研究部) 大石 和佳 (疫学部) 小笹 寛太郎 (統計部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部)</p>	<p>2009 年 10 月 1 日 - 2014 年 9 月 30 日</p>	<p>直接経費 ¥136,510,819 間接経費 ¥18,095,223</p>
<p>原爆被曝者の長期追跡に基づく炎症関連疾患発生の分子疫学研究</p>	<p>日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (B)」 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長</p>	<p>連携研究者 中地 敬 (放影研顧問)、小川 貴彦</p>	<p>2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日</p>	<p>直接経費 ¥4,400,000 間接経費 ¥1,320,000 東京大学の研究分担者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。</p>
<p>放射線障害と宿主要因からみた発がんの分子基盤とその臨床応用に関する研究</p>	<p>厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次がん総合戦略研究事業」 研究代表者 安井 弥 広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子病理学研究室教授</p>	<p>楠 洋一郎 林 奉権</p>	<p>2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日</p>	<p>¥2,200,000</p>
<p>喫煙の免疫および炎症関連生体指標と生活習慣病発生に及ぼす影響の分子疫学研究</p>	<p>公益財団法人 喫煙科学研究財団 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長</p>	<p>林 奉権</p>	<p>2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日</p>	<p>¥2,000,000</p>
<p>低線量放射線は心血管疾患発症の原因と成りうるか？低動物実験による検証</p>	<p>公益財団法人 日本原子力安全研究協会 環境省「平成 25 年度原子力災害影響調査等事業 (放射線の健康影響に係る研究調査事業)」 研究代表者 丹羽 保晴 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室副主任研究員</p>	<p>研究協力者 高橋 規郎 (主席研究員) 研究員室付顧問 大石 和佳 (臨床研究部) 三角 宗近 (統計部) 研究参加者 村上 秀子</p>	<p>2013 年 6 月 18 日 - 2014 年 3 月 20 日</p>	<p>¥4,412,869</p>

平成 25 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究分担者	期間	研究資金
放射線生物学／分子疫学部 放射線甲状態発がんにおける EML4-ALK 融合遺伝子の生物学的役割に関する研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 濱谷 清裕 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部細胞生物学研究室研究員	伊藤 玲子	2013 年 4 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,700,000 間接経費 ¥510,000
韓国と日本の婦人科がん発生および放射 線治療成果との関連の分子疫学研究	日本学術振興会 二国間交流事業 韓国との共同研究 (NRF) 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子 疫学部副部長	連携研究者 大石 和佳 (臨床 研究部)、中地 敬 (放影研顧 問) 研究協力者 胡 軼群、Kim Young Min (統計部)	2013 年 7 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	¥1,000,000
ゲノム損傷応答と造血幹細胞機能にかか わる分子経路探索法の確立	国立遺伝学研究所 2013 年度大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 「共同研究 (B)」 研究代表者 吉田 健吾 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部免疫学研究員	楠 洋一郎 林 奉権 三角 宗近 (統計部)	2013 年 4 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	¥744,000
疫学部 (広島) 原爆被爆者の乳がんに関する免疫組織学 的疫学研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 小笹 晃太郎 放射線影響研究所疫学部長		2013 年 4 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥100,000 間接経費 ¥30,000
予防接種に関するワクチンの有効性・安 全性等についての分析疫学研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業」 研究代表者 黄田 良夫 大阪市立大学大学院医学研究科教授	小笹 晃太郎	2013 年 4 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	¥400,000
がんの実態把握とがん情報の発信に関す る研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科社会 環境医学講座教授	杉山 裕美	2013 年 4 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	¥800,000
疫学部 (長崎) がんの実態把握とがん情報の発信に関す る研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科社会 環境医学講座教授	早田 みどり	2013 年 4 月 1 日－ 2014 年 3 月 31 日	¥800,000

平成 25 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放射研における研究分担者	期間	研究資金
その他 放射線被曝は循環器疾患のリスクを上昇 させるか？—動物実験による検証	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 高橋 規郎 放射線影響研究所主席研究員室付顧問	大石 和佳 (臨床研究部) 丹羽 保晴 (放射線生物学/分 子生物学部) 村上 秀子 (放射 線生物学/分子生物学部)	2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,800,000 間接経費 ¥540,000
総 合 計				¥264,659,039

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研究における研究者	放射線以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) NIHON-SEA (Nippon-Honolulu-Seattle) プログラム ラム (認知症の罹患率と発生率)	山田 美智子	立川 佳美 中島 栄二 大石 和佳	笠置 文善 (放射線影響協会) 佐々木 英夫 (安田女子大学) 三森 康世 (広島国際大学) White L (ホノルル加齢調査) Larson E (米国シアトル保健協同組合健康調査センター) 鎌石 和男 (八千代病院) 横山 知子 (広島大学) 高松 倫也 (広島大学) 柳 昌秀 (広島大学) 木内 良明 (広島大学) 隈上 武志 (長崎大学) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 深澤 祥子 (長崎大学) 北岡 隆 (長崎大学) 皆本 敦 (みなもと眼科) 赤星 正純 (恵寿病院)	1992
原爆被爆者における眼科追跡調査	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)			2010
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのコホート内症例対照研究	大石 和佳	Grant EJ (疫学部) Cologne JB (統計部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 中地 敬 (放射線顧問) 中島 栄二 (統計部)	鎌石 和男 (八千代病院) Sharp GB (米国国立アレルギー感染症研究所) 江口 英孝 (埼玉医科大学) 和泉 志津恵 (六分大学) Key TJ (英国インペリアルがん研究基金) Stevens RG (米国コネチカット大学保健センター) Berrington de Gonzalez A (米国国立がん研究所)	2002
凍結血清およびゲノム DNA を用いた萎縮性胃炎および胃がんに関する症例対照研究：胃がんに伴う慢性胃炎の新たなバイオマーカーの同定	大石 和佳	植田 慶子 Cullings HM (統計部) 林 春権 (放射線生物学/分子疫学部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
遺伝的要因は近距離被爆生存者の集団的偏りを来し得るか？同一の遺伝的要因が 40-50 年後の AHS 対象者で高炎症状態および心筋梗塞のリスク要因となった可能性を検証する	大石 和佳	高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2005

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 原爆被爆者における緑内障調査	木内 良明 (広島大学)	中島 栄二 (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 北岡 隆 (長崎大学) Khaitree R (米国オークラホマ州大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 赤星 正純 (恵寿病院)	2005
原爆被爆者における炎症とがん発生率	立川 佳美	中島 栄二 (統計部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子 Cologne JB (統計部)	Little MP (米国国立衛生研究所)	2005
非がん死亡における中間危険因子	William L (米国ワシントン大学)	高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 児玉 和紀 (主席研究員)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 赤星 正純 (恵寿病院) Kopecky KJ (米国ワシントン大学、フレッド ハッチソンがん研究センター) Davis S (米国ワシントン大学、フレッドハッ チソンがん研究センター)	2006
肥満度指数 (BMI) と死亡率	Thun M (米国がん協会)	大石 和佳 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長兼業務執行 理事)		2008
原爆被爆者の白内障水晶体標本の保存状況の検 討およびその収集と保存	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)	立川 佳美 中島 栄二 (統計部) 大石 和佳 林 奉権 (放射線生物学 / 分子 疫学部) 中地 敬 (放影研顧問)	鎌石 和男 (八千代病院) Blakely EA (米国国立バークレイ研究所) Chang P (米国 SRI インターナショナル) 赤星 正純 (恵寿病院) 皆本 敦 (みなもと眼科) 横山 知子 (広島大学) 戸田 慎三郎 (戸田眼科) 上松 聖典 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 白井 彰 (白井眼科) Cucinotta FA (米国 NASA ジョーンソン宇宙セ ンター) Chylack LT (米国ハーバード大学)	2008

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 被爆者の緑内障発症および大動脈動脈硬化に関連する網膜保存画像を用いた標準化測定による網膜細動脈硬化および加齢性黄斑変性の評価	高橋 郁乃	三角 宗近 (統計部) 中島 栄二 (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)	柳 昌秀 (広島大学) 板倉 勝昌 (広島大学) 川崎 良 (山形大学) 横山 知子 (広島大学) 高松 倫也 (広島大学) 木下 博文 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 上松 聖典 (長崎大学) 隈上 武志 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 赤星 正純 (恵寿病院) 鎌石 和男 (八千代病院)	2010
臨床研究部 (長崎) 広島成人健康調査対象集団における体組成に関する調査	立川 佳美	三角 宗近 (統計部) 大石 和佳 山田 美智子	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) Harris TB (米国加齢研究所) 笠置 文善 (放射線影響協会)	2010
臨床研究部 (長崎) ブルガタ型心電図と前立腺がんとの関係	春田 大輔	飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	赤星 正純 (恵寿病院) 瀬戸 信二 (長崎大学)	2007
潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析	Rodondi N (スイス、ベルン大学インゼルスビタル大学病院)	今泉 美彩	Gusselkloo J (オランダ、ライデン大学医学センター)	2008
被爆者における慢性腎疾患と心血管疾患との関連	春田 大輔	高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 山田 美智子 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 立川 佳美 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部) 三角 宗近 (統計部)	恒任 章 (長崎大学) 和男 (八千代病院) 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 藤原 正純 (恵寿病院) 赤星 正純	2009

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) 放射線と心血管疾患の関連における内臓脂肪の役割と効果	世羅 至子	中島 栄二 (統計部) 飛田あゆみ 今泉 美彩 Cullings HM (統計部)	Carter RL (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校) 赤星 正純 (恵寿病院)	2011
QT 短縮の遺伝子基盤に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	春田 大輔 大石 和佳 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ	赤星 正純 (恵寿病院) 前村 浩二 (長崎大学)	2011
進行性心臓伝導障害の疫学と遺伝子異常に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	春田 大輔 大石 和佳 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 中島 栄二 (統計部)	赤星 正純 (恵寿病院) 前村 浩二 (長崎大学)	2012
日本人における体重変動とがん、循環器疾患の罹患および死亡との関連	南里 明子 (国立国際医療研究センター)	世羅 至子 高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 早田 みどり (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (広島疫学部) Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ	溝上 哲也 (国立国際医療研究センター) 荒木 由布子 (久留米大学) 赤星 正純 (恵寿病院)	2012
MRI による口腔乾燥症患者唾液腺における脂肪浸潤診断の重要性に関する検討	高木 幸則 (長崎大学)	飛田 あゆみ	中村 英樹 (長崎大学) 角 美佐 (長崎大学) 赤星 正純 (恵寿病院) 中村 卓 (長崎大学)	2012
基準範囲内の血清 TSH と冠動脈心疾患のリスク	Åsvold BO (ノルウェー科学技術大学)	今泉 美彩	Chaker L (オランダ、エラスムスメディカルセンター)	2012
血清 TSH 値と脳卒中のリスク—「潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析」の補遺	van Dijk B (オランダ、エラスムスメディカルセンター)	今泉 美彩	Peeters RP (オランダ、エラスムスメディカルセンター) Franco O (オランダ、エラスムスメディカルセンター)	2013

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) 潜在性甲状腺機能異常と骨有害事象―「潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析」の補遺 甲状腺機能と腎機能の経時的進行の関連	Blum MR (スイス、ベルン大学インゼルスピタル大学病院) den Elzen W (オランダ、ライデン大学医療センター)	今泉 美彩 今泉 美彩 大石 和佳 (広島臨床研究部)	da Costa B (スイス、ベルン大学社会学研究所) Rodondi N (スイス、ベルン大学インゼルスピタル大学病院) Meuwese CL (オランダ、ライデン大学医療センター) Gussekloo J (オランダ、ライデン大学医療センター) Rodondi N (スイス、ベルン大学インゼルスピタル大学病院)	2013 2013
遺伝学部 原爆被爆者における早発性の乳がんおよび卵巣がんにおける分子学的変化 ラット卵母細胞における突然変異の検出 長崎の原爆被爆者から得られた菌試料の ESR 測定 ES 細胞のターゲティング 胎仔照射したラット乳腺上皮細胞における染色体調査 放射線の遺伝影響測定モデル動物の作成 放射線のマウスオス生殖細胞に及ぼす遺伝的影響評価：高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた調査 日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異ヘテロ保因者における非黒色腫皮膚がんリスクの評価	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Land CE (米国立がん研究所) 上口 勇次郎 (旭川医科大学) 三根 真理子 (長崎大学) 末盛 博文 (京都大学) 島田 義也 (放射線医学総合研究所) 三谷 啓志 (東京大学大学院) 島田 義也 (放射線医学総合研究所) 馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Kraemer KH (米国立がん研究所)	平井 裕子 浅川 順一 平井 裕子 中村 典 (同部顧問) 野田 朝男 見玉 喜明 野田 朝男 浅川 順一 平井 裕子 中村 典 (同部顧問)	2001 2003 2005 2007 2008 2009 2009 2009	

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
遺伝学部 福島県浪江町住民の生物学的線量評価	吉田 光明 (弘前大学)	見玉 喜明		2013
次世代シーケンサーを用いた放射線のマウス成熟卵母細胞に及ぼす遺伝リスク評価	高田 義也 (放射線医学総合研究所)	佐藤 康成		2013
放射線生物学／分子疫学部 散発性肺発がんにおける遺伝子変異と発現の研究	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学)	中地 敬 (放射線顧問) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝 (同部顧問)		2002
日本人集団における様々な遺伝子多型の頻度調査	吉田 輝彦 (国立がんセンター)	中地 敬 (放射線顧問) 楠 洋一郎 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝 (同部顧問)		2002
胃がんの遺伝的感受性の研究	安井 弥 (広島大学)	林 奉権 中地 敬 (放射線顧問) 伊藤 玲子 今井 一枝 (同部顧問)		2002
細胞への放射線影響における低酸素応答遺伝子 $HIF1\alpha$ の役割に関する研究	谷本 圭司 (広島大学)	中地 敬 (放射線顧問) 今井 一枝 (同部顧問)	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (広島)	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子	有廣 光司 (広島大学) 林 雄三 (広島市立安佐市民病院)	2002
細胞膨化致死毒素による抹消リンパ球アポトーシス誘導の研究	管井 基行 (広島大学) 小原 勝 (広島大学)	楠 洋一郎 林 奉権 中地 敬 (放射線顧問)		2001
放射線と抗がん剤の組み合わせによるアポトーシス誘導におけるギヤッパ結合の役割に関する研究	小川 貴彦 (県立広島病院) 林 奉権	中地 敬 (放射線顧問)	Trosko JE (米国ミシガン州立大学)	1998

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 遺伝子改変マウスの TCR 遺伝子および HPR1 遺伝子変異の解析	笹谷 めぐみ (広島大学原爆放射線医学研究所)	楠 洋一郎 中地 敬 (放射線顧問)	神谷 研二 (広島大学原爆放射線医学研究所)	2004
散発性乳がんの発生・進展の分子生物学的研究	林 慎一 (東北大学)	中地 敬 (放射線顧問) 今井 一枝 (同部顧問) 林 奉権	江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
がん細胞のアポトーシスにおける細胞間コミュニケーションの役割の研究	林 奉権	胡 軼群	小川 貴彦 (県立広島病院)	2005
免疫学的加齢と細胞内活性酸素産生への放射線影響の研究	林 奉権		林 幾江 (広島大学)	2006
原爆被爆者における肺および大腸がんの研究	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問)	安井 弥 (広島大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2004
原爆被爆者における胃がんの研究	安井 弥 (広島大学)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問)		2006
末梢リンパ球を用いた放射線誘発遺伝的不安定性の機序に関する研究	本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所)	楠 洋一郎 濱崎 幹也 (遺伝学部)		2008
散発性胃がんの臨床および分子病理学的解析	安井 弥 (広島大学)	伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問)		2004
放射線症例研究のための新規統計モデルの開発	和泉 志津恵 (大分大学)	中地 敬 (放射線顧問) 古川 恭治 (統計部)		2006
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (長崎)	濱谷 清裕	早田 みどり (長崎疫学部)	中島 正洋 (長崎大学) 関根 一郎 (長崎県赤十字血液センター) (ほか)	2005
散発性胃がんにおける炎症性サイトカインの役割	菅沼 雅美 (埼玉県立がんセンター)	今井 一枝 (同部顧問) 林 奉権 中地 敬 (放射線顧問)		2006

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学/分子疫学部 原爆被爆者の肺がんの分子疫学的特徴の研究	多賀 正尊	濱谷 清裕 伊藤 玲子	Harris CC (米国国立がん研究所) 安井 弥 (広島大学) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
アジア太平洋地域における心血管疾患の共同コホート研究	Asian Pacific Cohort Studies Collaboration (オーストラリア、ジョージ国際健康研究所)	中地 敬 (放射線顧問) 今井 一枝 (同部顧問)		1996
幹細胞への放射線および薬物影響の生物学	林 奉権	中地 敬 (放射線顧問)	林 幾江 (広島大学)	2002
甲状腺腫瘍の分子解析	武市 宣雄 (武市クリニック)	濱谷 清裕 中地 敬 (放射線顧問) 楠 洋一郎		2008
低線量放射線により循環器疾患が誘発されるかを動物モデルを使い検討する	稲葉 俊哉 (広島大学)	丹羽 保晴 高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 楠 洋一郎		2012
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	稲葉 俊哉 (広島大学)	丹羽 保晴 高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 楠 洋一郎		2011
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	田中 公夫 (環境科学技術研究所)	高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 村上 秀子 丹羽 保晴 楠 洋一郎	小木曾 洋一 (環境科学技術研究所) 田中 聡 (環境科学技術研究所)	2011
ゲノム損傷応答と造血幹細胞機能にかかわる分子経路探索法の確立	吉田 健吾	京泉 誠之 林 奉権 梶村 順子 三角 宗近 (統計部) 中地 敬 (放射線顧問) 楠 洋一郎	松井 啓隆 (広島大学) 金井 昭教 (広島大学) 稲葉 俊哉 (広島大学) 池尾 一穂 (国立遺伝学研究所) 五條堀 孝 (国立遺伝学研究所)	2013

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 原爆被爆者における放射線治療と第二原発がんリスクの関連	吉永 信治 (放射線医学総合研究所)	早田 みどり (長崎疫学部) 森脇 宏子 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 片山 博昭 (情報技術部)	笠置 文善 (放射線影響協会) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 赤羽 恵一 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 島田 義也 (放射線医学総合研究所) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2007
食道がんと胃がん：広島と長崎におけるリスクの傾向と予測因子	Kennedy BS (米国ニューヨーク州ロチェスター市モモンロー郡公衆衛生局)	Grant EJ 清水 由紀子 (非常勤研究員) 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 山田 美智子 (臨床研究部)	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Chow WH (米国立がん研究所) 笠置 文善 (放射線影響協会) 陶山 昭彦 (富永病院) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所)	2008
放射線に関連した甲状腺がんの第二回共同解析	Veiga L (米国立がん研究所) Lubin J (米国立がん研究所)	坂田 律 Shore RE (副理事長兼業務執行理事)		2008
アジア人コホート研究コンソシアムへの参画提案プロジェクト1：喫煙・飲酒・肥満度と稀ながんリスク、プロジェクト2：BMIと全死亡率(第2段階)、プロジェクト3：アジア人コホートにおける肥満度(BMI)と中頻度および低頻度のがんリスク、プロジェクト4：アジア人における食習慣と死亡率	Potter J (米国フレッドハッチンソンがん研究センター) Kang D (韓国ソウル国立大学医学部)	Grant EJ 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長兼業務執行理事)		2010
食事および膀胱がんの関係に関する統合プロジェクトへの参加提案	Zeegers M (オランダ、マーストリヒト大学)	Grant EJ 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)		2012
胆道がん統合プロジェクトへの参加提案	Koshiol J (米国立がん研究所)	Grant EJ 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)		2013

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射研における研究者	放射研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) LSS 集団における放射線のがん罹患リスク (幾つかの部位別がん研究を含む)	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 小笹 晃太郎	Cullings HM (統計部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部) 船本 幸代 (統計部) Grant EJ 杉山 裕美 坂田 律 定金 敦子	Brenner A (米国立がん研究所) Neta G (米国立がん研究所) Gahoon EK (米国立がん研究所) Berrington de Gonzalez A (米国立がん研究所) Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	2012
疫学部 (長崎) 長崎原爆被爆者に発生した病理組織学的診断根拠のある多重がん症例の同定	中島 正洋 (長崎大学)	早田 みどり		2007
長崎県がん登録に基づく放射線治療環境と患者予後についての研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
長崎県がん登録に基づく患者受療動態から見た医療圏の研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
長崎県の小児がん患者における治療医療機関の集中化と生存率についての検討	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
統計学部 原爆被爆者のデータにおける染色体異常、放射線の初期影響および後影響に関する同時解析	Stram D (米国南カリフォルニア大学)	Cologne JB Cullings HM 古川 恭治 三角 宗近		2007
がんリスクの機序モデル	Dekkers F (オランダ国立公衆衛生環境研究所) Bijwaard H (オランダ国立公衆衛生環境研究所)	Cullings HM		2007
がんリスクの機序モデル	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Pierce D (米国オレゴン保健科学大学)	Cullings HM		2008
リスク回帰に対する線量不確実性の影響を評価するためのシミュレーション法		Cullings HM		2008

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 日本におけるトトロラスト投与患者と原爆被爆者の肝がんリスクの比較	森 武三郎 (放射線医学総合研究所)	Cullings HM Cologne JB 清水 由紀子 (疫学部非常勤研究員)		2005
原爆被爆者線量推定値における不確実性を評価しそれに対処するための操作変数としての生物学的線量推定値：AHS の部分集団における予備評価	Carter R (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校)	Cullings HM 児玉 和紀 (主席研究員) 楠 洋一郎 (放射線生物学/分子疫学部) 中村 典 (遺伝学部顧問) 小笹 晃太郎 (疫学部) 今泉 美彩 (長崎臨床研究部) Cologne JB 中島 栄二 三角 宗近 船本 幸代	Miller A (米国ニューヨーク州立大学バッファロー校) 鎌石 和男 (八千代病院) Stram D (米国南カリフォルニア大学)	2007
胎内被爆者または若年被爆者におけるがん罹患率のリスク評価	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	Cullings HM 児玉 和紀 (主席研究員) 早田 みどり (長崎疫学部) Shore RE (副理事長兼業務執行理事)	陶山 昭彦 (富永病院)	2007
歯エナメル質 ESR 測定値の遮蔽カーマと臓器線量への換算のための特殊モンテカルロ計算法	中村 典 (遺伝学部顧問) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
スペクトルデコンボリューション、新手法および新情報を用いた、放影研の歯の ESR 測定データの更新	中村 典 (遺伝学部顧問) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
個々のデータを用いたリスク評価のベイジックアプローチ	Little MP (米国国立衛生研究所)	Cullings HM 古川 恭治 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 (疫学部)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 陶山 昭彦 (富永病院) 笠置 文善 (放射線影響協会) Molitor J (米国南カリフォルニア大学)	2007

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 放射線被曝およびバイオマーカーのための関数法	Wang CY (米国フレッドハットソンガン研究センター) Cologne JB	Cullings HM 中島 栄二 坂田 律 (疫学部) 高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 古川 恭治	鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 角間 辰之 (久留米大学) 荒木 由布子 (久留米大学)	2007 2007
米国における成人甲状腺機能亢進症のための放射線ヨウ素治療のガン死亡率への関連	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	古川 恭治 船本 幸代	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 江川 博彌 (広島市立安佐市民病院) 米原 修治 (JA 広島厚生連尾道総合病院) 松尾 武 (長崎県健康事業団)	2009 2006
原爆被曝者における放射線被曝と喫煙の肺がんリスクへの相互効果	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	古川 恭治 船本 幸代	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 林 雄三 (介護老人保健施設“陽だまり”) 津田 暢夫 (長崎県健康事業団)	2009
LSS 集団における甲状腺腫瘍発生率の調査	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	坂田 律 (疫学部) 古川 恭治 船本 幸代	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル) 林 雄三 (介護老人保健施設“陽だまり”) 津田 暢夫 (長崎県健康事業団)	2009
セミパラメトリック生存外挿法：放影研のコホートをを用いたモデルの検証	方 敬泰 (台湾大学疫学研究所)	古川 恭治 Cullings HM 早田 みどり (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	王 榮徳 (台湾大学公衆衛生学院) 黄 景祥 (台湾中央研究院) 笠置 文善 (放射線影響協会) 陶山 昭彦 (富永病院)	2009
成人健康調査集団における放射線、炎症、白内障手術への因果モデルの応用	角間 辰之 (久留米大学) Hsu WL	中島 栄二	荒木 由布子 (久留米大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2009
長期体重変動とがんおよび心血管疾患罹患および死亡に関するコホート研究	南里 明子 (国立国際医療センター研究所) 溝上 哲也 (国立国際医療センター研究所)	早田 みどり (長崎疫学部) Cologne JB	赤星 正純 (恵寿病院) 荒木 由布子 (久留米大学)	2009
コホート内症例対照調査における放射線と中間リスク因子の同時効果に関する評価方法	Cologne JB	古川 恭治 Grant EJ (疫学部) 大石 和佳 (臨床研究部) 中地 敬 (放影研顧問) Cullings HM	Langholz B (米国南カリフォルニア大学) 藤井 良宜 (宮崎大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2008

平成 25 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 急性放射線被曝後のがんリスク推定：中性子線量の影響とリスク係数のノンパラメトリック解析	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所) Rühm W (ドイツ、ミュンヘン大学/国立環境保健研究所) Walsh L (ドイツ放射線防護連邦局)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：リスク推定値への放射線生物学的効果の影響	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Eidemüller M (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所)	2008
情報技術部 ヒト遺伝子解析用データベースの構築とユニバー・インターフェースの開発、およびディクショナリーシステムの構築に関する共同研究	Slezak T (米国ローレンス・リバモア国立研究所)	片山 博昭		1996
大阪府のがん対策事業に対する包括的がん登録システム構築に関する技術協力	津熊 秀明 (大阪府立成人病センター)	片山 博昭		2005

国際協力活動

放影研役職員の国際協力関係活動への参加

1. 在北米被爆者健診事業への協力

この事業は1977年から2年に1度行われてきたもので、2007年度から国の在外被爆者支援事業に組み入れられ、国から広島県への委託事業となり、広島県から広島県医師会に委託される形となった。19回目となる2013年度の健診事業は、第1班が6月26日から7月8日までロサンゼルスとホノルルを、第2班が7月17日から7月31日にかけてサンフランシスコとシアトルを訪問し、放影研からは立川佳美広島臨床研究部副主任研究員が第1班に参加した。

2. 在韓被爆者健康相談事業への協力

この事業は、長崎県と長崎市が国の在外被爆者支援事業の一環として、在韓被爆者の健康相談と健康指導を行うために2004年度から始めたもので、半年に1回実施されている。2013年度に行われた第20回目の健診事業に、放影研から春田大輔長崎臨床研究部研究員が医師団に参加し、11月10日から13日まで韓国光州市および大田市において被爆者の健康診断と健康指導に従事した。

3. 世界保健機関（WHO）関連

放影研は、1979年に放射線の人体影響に関するWHO研究協力センターに指定され、1988年からはWHO放射線緊急事故医学的対応・救援ネットワーク（REMPAN）のメンバーになっている。児玉和紀主席研究員および片山博昭情報技術部長が2014年3月24日、オーストリアのウィーンのWHO本部で緊急被ばく医療対策などについて意見交換を行った。

4. 国連原子放射線影響科学委員会（UNSCEAR）関連

Roy E. Shore 副理事長が2013年5月27日から30日に、オーストリアのウィーンで開催された第60回のUNSCEAR会議で、小児被曝後のがんリスクについて発表を行った。同会議には、児玉和紀主席研究員および小笹晃太郎疫学部長も出席した。

児玉主席研究員はこのほか、ウィーン滞在中にUNSCEAR福島報告書作成会議に出席、翌年の3月28日には、東京で開かれたUNSCEAR国内対応委員会にも出席した。

5. 国際放射線防護委員会（ICRP）関連

Roy E. Shore 副理事長が2013年12月10日と11日の両

日、ドイツのミュンヘンで行われたICRPのDDREF（線量・線量率影響修飾）の評価に関するタスクグループの会合において、低線量または低線量率の放射線被曝に関する疫学調査について発表を行った。

6. 国際原子力機関（IAEA）との協力

児玉和紀主席研究員および片山博昭情報技術部長が2014年3月19日から21日にかけて、スイスのジュネーブにあるIAEAを訪問し、放影研とIAEAとの協力に関して意見交換を行った。

7. 国際原子力機関（IAEA）と放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）の協働事業関連

児玉喜明遺伝学部長および小笹晃太郎疫学部長が、2013年6月10日から14日まで広島において開催された「21世紀のバイオドシメトリーに関する研修会」で講義を行った。同じ協働事業において、児玉和紀主席研究員は2013年10月28日から11月1日まで広島で開催された「IAEAとの共催による緊急被ばくに関する研修会」で、また児玉遺伝学部長および野田朝男遺伝学部副部長は2013年10月29日に同じく広島で開かれた「放射線事故の医療対応に関する国際ワークショップ」において講師を務めた。

8. 国際がん研究機関関連

片山博昭情報技術部長が、2013年5月6日から11日までフランスのリヨンで開催されたSEMI-NUC会議（主催：国際がん研究機関。セミパラチンスク核実験場跡地周辺でのコホートの設定可能性を調査することを目的とした会議）に外部諮問委員として出席。次いで英国ロンドンの公衆衛生教育研究機関を表敬訪問した。

9. セミパラチンスク関連

片山博昭情報技術部長が2013年7月8日から10日まで、ドイツのミュンヘンで、セミパラチンスクでの低線量被曝による甲状腺障害に関するリスク解析についてドイツ連邦放射線防護機関のBernd Grosche博士と打ち合わせを行った。また、同年9月16日から19日にかけて、セミパラチンスクのカザフスタン放射線医学環境研究所を訪問し研究に関する打ち合わせを行った。

10. その他

1) Roy E. Shore 副理事長が、放射線治療後の乳がんに関するWECARE研究に重点を置いた、乳がんリスクに対する放射線影響の遺伝因子および環境因子による修飾に関

する会議に、欧米の研究所の研究者らと共に出席した。この会議は2013年5月21日と22日の両日、米国ニューヨークで開かれた。

- 2) 長崎疫学部の前田みどり研究員（嘱託）が、長崎大学大学院国際健康開発研究科の依頼により、2013年12月11日から15日にかけて、マニラのフィリピン・ジェネラルホスピタルを訪ね、フィリピンがん協会の代表者と研究打ち合わせを行った。また、セント・ルカスホスピタルの院内がん登録を見学した。
- 3) Roy E. Shore 副理事長は、2014年2月21日から23日まで東京で開かれた放射線と甲状腺がんに関する国際ワークショップにおいて、放射線被曝と甲状腺疾患リスクに関する放影研の所見について発表した。

海外からの視察・研修などの受け入れ

2013年度の受け入れ総数は、広島・長崎の両研究所を合わせて90人だった（一般見学者を除く）。

【広島 84 人】

放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）関連（13人）

1) 韓国関係（8人）

2013年7月11日、韓国放射線被曝者医療従事者短期研修団研修生2人。2013年11月28日、在韓国被曝者医療研修団研修生6人。

2) その他（5人）

2014年1月14日から2月14日まで、ラトビア研修生1人。2014年2月21日、ブラジル、米国、アルジェリア研修生4人。

国際協力機構（JICA）関連（8人）

2013年11月6日、結核予防会結核研究所「平成25年度MDGs達成を目指した結核菌検査マネジメントコース」研修生8人（アフガニスタン、バングラデシュ、カンボジア、ケニア、ミャンマー、フィリピン）。

放影研（厚生労働省国際交流調査研究事業）関連（2人）

2014年1月14日から2月14日まで、リガ・ストラディンス大学研修生1人。2014年2月3日から28日まで、韓国国立がんセンター研修生1人。

日本原子力研究開発機構（JAEA）関連（48人）

- 1) 2013年7月26日、「核物質及び原子力施設の物理的防護に係る地域トレーニングコース」研修生28人（バングラデシュ、カンボジア、インドネシア、ヨルダン、ラオス、リトアニア、マレーシア、モンゴル、シンガポール、タイ、トルコ、ウクライナ、ベトナム）。
- 2) 2013年11月29日、「国内計量管理制度に関する国際トレーニングコース」研修生20人（オーストラリア、バングラデシュ、カンボジア、インドネシア、ヨルダン、マレーシア、モルドバ、ミャンマー、ネパール、タイ、トルコ、アラブ首長国連邦、ウクライナ、ウズベキスタン、ベトナム、オーストリア）

文部科学省関連（10人）

2014年1月17日、名古屋大学大学院医学系研究科

「2013-2014年度ヤング・リーダーズ・プログラム名古屋大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻医療行政コース」研修生10人（モンゴル、ラオス、キルギス、バングラデシュ、アフガニスタン）。

放影研・クアキニ病院研究会議（NI-HON-SAN [Nippon-Honolulu-San Francisco]）共同研究関連（3人）

米国ハワイのクアキニヘルスシステムの Gary K. 梶原プレジデント&CEO、Ellen T. Knight スペシャルプロジェクトコンサルタント、三木信幸クアキニ病院副院長が2013年11月12日、NI-HON-SAN 循環器共同研究に関する会議のため来所した。

【長崎 6 人】

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）関連（6人）

2013年7月23日、2013年度NASHIM研修生6人（ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン）。

長期研修者リスト（1カ月以上）

2013年10月24日-2014年10月23日

Caitlin M. Milder 米国ジョーンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生学部修士課程

疫学部の監督の下に、疫学、Stata データおよび統計解析ソフトウェア、マイクロソフトエクセル、放射線疫学分野における日本語に関する実用的な知識を深め、放射線生物学および疫学、Epicure、放影研の歴史について洞察を

得た。またフェイスブック開発チームの一員として、ソーシャルメディアを用いた放射線リスク情報の伝達に関し放影研に助言を与えた。

2014年1月14日－2月14日

Tatjana Bogdanova ラトビア、リガ・ストラディン大学病院病理部病理学研修医

Svetlana Lakisa ラトビア、リガ・ストラディン大学職業安全環境衛生研究所研究員

放射線生物学／分子疫学部の免疫学研究室において、免疫機能に対する放射線被曝の影響を研究するため、血液試料からの単核球細胞分離手法ならびに免疫担当細胞内活性酸素種の測定法などについて研修するとともに、細胞生物学研究室において、放射線関連がんの研究のためのマイクロダイセクション法によるがん組織からのがん細胞の収集とDNA突然変異の解析方法を習得した。遺伝学部細胞遺伝学研究室においては、多色 FISH（蛍光 *in situ* ハイブリダイゼーション）法について研修した。